

鵜殿のヨシ原は高槻の誇り(鵜殿豆知識)

① 堤防にある先端が尖がった塔は？

- 河川監視用カメラ塔（今は玉子排水機場と NEXCO 工事現場出入口を監視）
- ヨシの芽生え（葦牙=あしかび）をイメージしたデザイン



② ヨシ原はいつからあるの？

- 縄文時代の後期、約 3000 年前にこのヨシ原が出来た（C14 法）
- 稲作が九州北部に、中国揚子江中流域から伝わったのもこの頃で、約 2600 年前に近畿地方にも伝わった
- 約 1300 年前に書かれた「古事記」の 1 ページ目に「うましあしかびひこち」というヨシに因む神様が書かれている ⇒ヨシと稲作は関係する？
- ヨシ原は約 75ha(甲子園球場 18 個)、1~3m の上流側が厚い肥沃なシルト層



③ 自然と歴史の誇りは？

- トネハナヤスリ、ノウルシ、アゼオトギリ等の 20 数種の絶滅危惧種
春はハナウド、オドリコソウ、クサノオウ、カキドオシなど
夏はナンバンギセル、キツネノカミソリなど。全域で 3~400 種の植物
- 何万羽ものツバメの塹(ねぐら)入り(他では平城宮、宇治向島)が見られるなど多くの生きもの
府下では珍しい草原の鳥：オオヨシキリ、セッカ。冬はコミミズク、空中停止のチョウゲンボウ、キジの夫婦、危惧種のクロツラヘラサギも、動物ではカヤネズミ、シベリアイタチ、ホンドギツネ等
- 古事記からつながる昔の人たちの書いたものに「鵜殿」やヨシの事が記述されている
土佐日記（紀貫之）、本草綱目(ほんぞうこうもく)啓蒙、淀川兩岸一覽、牧野富太郎選集 5
- 平安時代から続く雅楽の箏(ひちりき)に使う蘆舌(ろぜつ:リード)は「陸ヨシ」でここで取れる
(奈良時代はダンチクを使用)



トネハナヤスリ



ナンバンギセル



ホンドギツネ

④ ヨシ原を守る「つる草抜き」活動は？

- 乾燥化が進み、人手が掛けられなくなって「つる草」=「カナムグラ」や「ヤブガラシ」が茂りヨシを倒して光合成を妨げ枯らせてしまった。しかし、箏用の太くて堅い「陸ヨシ」の地下茎は 1.5m の深さにあって再生可。また、オオブタクサや、セイタカアワダチソウもヨシの成長を阻害か
- 雅楽協議会が 7000 m² のエリアを定めて春先から夏まで「つる草」を駆除して「陸ヨシ」を育てる
- 生態系を守り、防災にも大切な「特定外来種」の侵入防止（鵜殿ではナガエツルノゲイトウの駆除）

豊かで素晴らしい自然が残されている。誇らしい地元の守るべき自然を知って守ろう